日本語教育研究科アセスメント・ポリシー

【修士課程】

専門知識：日本語教育の基本的な専門知識については 2 つの必修科目（1-2 期）の履修が課せられており、同科目の成績によって評価される。その他、個別領域の専門知識については、1-3 期の間に専門科目を 3 科目（以上）の履修が推奨されており、同科目の成績によって評価される。

実践能力：異なるタイプの実践科目を 3 科目以上の履修が課せられており、1-3 期に 1 科目ずつ履修することが推奨されている。日本語教育における実践能力は、実践活動過程における自己評価、ピア評価、教師評価によって評価される。

問題発見・解決力：修士論文作成の過程で提出される成果物（1 期目終了時「研究計画」、2 期目終了時「2 期目研究ノート」、3 期目終了時「3 期目論文」、4 期目終了時「修士論文」）により評価される。

コミュニケーション力：日本語教育研究科の授業は、議論に基づくアクティブ・ラーニングが標準であり、コミュニケーション力は授業の過程で養成され、そのパフォーマンスとして評価される。

「国際性」：日本語教育学は、外国語教育学としての性質上、国際性を前提にしており、また、日本語教育研究科の修士課程の約半数が留学生であることからも、通常の教室環境において国際性が存在する。このような環境において、国際性は各授業への参加の過程で養成され、そのパフォーマンスとして評価される。

測定時期	学修成果	測定方法	備考
1~3 期	専門知識	直接評価：必修科目、理論科目等の成績	理論科目：必修 2 科目（日本語教育学入門、日本語教育学研究方法論）+3 科目
1~3 期	実践能力	直接評価：実践科目等の成績、実践中の自己評価、ピア評価、教師評価	実践科目：3 科目
1~4 期	問題発見・解決力	直接評価：演習科目等での取り組みで評価	研究計画、2 期目研究ノート、3 期目論文 中間発表、3 期目発表
1~4 期	コミュニケーション力	直接評価：科目の成績	授業でのディスカッションの参加度、実践科目のコーディネートなど
1~4 期	国際性	直接評価：科目の成績、海外実践の参加	授業でのディスカッションの参加度など
修了時	測定可能な学修成果を記載	直接評価：修士論文の評価	基準の明記

【博士後期課程】

博士後期課程においては、すべての学修成果項目（「専門知識」「実践能力」「問題発見・解決能力」「コミュニケーション力」「国際性」）は、博士論文作成の過程で求められる成果物（「研究発表」「研究論文」など）、および、半年に一回提出される「研究経過報告」によって、総合的に評価される。

測定時期	学修成果	測定方法	備考
1 ~6 期	専門知識	直接評価：研究発表、研究論文、予備審査会の評価 間接評価：博士ポートフォリオ	半年に一回の研究経過報告（博士ポートフォリオ） 研究指導
1 ~6 期	実践能力		
1 ~6 期	問題発見・解決力		
1 ~6 期	コミュニケーション力		
1 ~6 期	国際性		
修了時	測定可能な学修成果を記載	直接評価：博士論文の評価	